

香川県漆芸研究所

平成26年度研究生・研究員による修了制作展

修了展

香川県漆芸研究所は、江戸時代から受け継がれてきた香川漆芸の技法(蒔醬・存清・彫漆)の伝承と後継者の育成を目的とする全国初の施設として昭和29年に発足し、今年60周年を迎えました。創立以来、磯井如眞、音丸耕堂ら重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとする優れた指導者を講師として迎え高い技術と精神を伝承してきました。現在までの修了者は410人です。技と心は受け継がれ、漆芸作家や漆工技術者として香川の伝統工芸や伝統産業の振興に寄与しています。

この展覧会では、これからの香川漆芸を担う研究生・研究員の一年の成果を発表致します。まだまだ未熟な作品ではありますが、ご高覧頂ければ幸いです。

香川漆芸の技法

香川漆芸は、彫刻刀や剣による彫りの技術と、黒や朱に加え、彩漆(いろうるし)による色彩豊かな漆の使用が特徴である蒔醬(きんま)・存清(ぞんせい)・彫漆(ちょうしつ)の技法を「香川の三技法」といいます。また、竹ひごを籠状に編んで器物とする籃胎(らんたい)も香川独自の素地制作の技法です。

この展覧会では、これらの技法を用いて制作された作品のほか様々な漆の表現技法によって制作された作品を、展示・販売致します。



蒔醬【きんま】

漆を塗り重ね、剣で文様を彫り込み、彫り込んだ溝に彩漆を埋め、表面を平らに研いで意図した文様を表現する技法。



存清【ぞんせい】

漆を塗り重ね、彩漆で文様を描き、剣で輪郭や細部に線彫りを施し彫り口の凹部に金粉や金箔を埋めて文様を引き立てる技法。



彫漆【ちょうしつ】

各種の彩漆を数十回から数百回塗り重ねて彩漆の層(100回で厚さ3mm)を作り、その層を彫り下げることで、文様を浮き彫りにする技法。

修了展

香川県漆芸研究所

平成26年度研究生・研究員による修了制作展

2015年3月10日[火]—3月15日[日]

会場 | 香川県文化会館 2階 入場無料

開館時間 | 9:00 — 17:00 最終日 | 15:00 まで

交通案内 | JR高松駅から//// 徒歩約15分、又はバスにて「県庁前」下車徒歩2分
ことん瓦町駅から// 徒歩約10分
高松自動車道から//// 高松中央インターより約20分
※当館に駐車場はございません。周辺の公共・民間駐車場をご利用ください。



香川県漆芸研究所

〒760-0017 香川県高松市番町1丁目10-39
<http://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsuguei/>

087-831-1814